

(株)デジタルメディアプロフェッショナル
2020年3月期第2四半期決算説明会 質疑応答要旨

(ご質問1)

RS1が量産出荷中とのことだが、業績に寄与するタイミングとインパクトを教えてください

(ご回答1)

業績に寄与するタイミングについては、新基準機への切り替え需要が本格化する2020年夏(東京オリンピック・パラリンピック終了後)以降2021年1月にかけて一つの山が来ると考えています。業績へのインパクトについて具体的な数字は控えさせていただきますが、相当程度のインパクトがあると予想しています。また、この山を越えても引き続き新基準機向けにRS1の需要は継続すると考えています

(ご質問2)

開発体制強化の具体的な計画内容を教えてください

(ご回答2)

ヤマハ発動機様との業務資本提携発表時に資金使途として開示していますが、年間約10人の採用を5年間程度行うことを目標にしており、それに沿った計画です

(ご質問3)

上期から下期にシフトした案件はどのようなものか

(ご回答3)

具体的な案件内容は申し上げられませんが、まずIPコアライセンスのシフト案件としては、大手コンシューマエレクトロニクス事業会社との新規商談があり、今年中の売上計上を見込んでいます。また、プロフェッショナルサービスのシフト案件としては、安全運転支援関連で複数の新規顧客との商談があり、今期中の売上計上を見込んでいます

(ご質問4)

ゲーム機向けロイヤリティ収入を来期はどのように見込んでいるか

(ご回答4)

ゲーム機向けについては、弊社IPが採用されている機種のリライフは限定的であり、来期もロイヤリティ収入の減少は続くと思われまます。一方、その他コンシューマ機器向けグラフィックスIPに係るロイヤリティ収入は継続的に発生し、また、AI関連のIPコアライセンス(DVコアシリーズ)の収入は、量産ロイヤリティも含め今後増加していくものと見込んでいます

(ご質問5)

下期に出荷されるRS1は量産機向けという理解でよいか

(ご回答5)

そのご理解に相違ございません

(ご質問6)

RS1の出荷の山が来るのは2020年夏以降とのことだが、2021年3月期上期にも売上計上されるのか

(ご回答6)

商流として商社を経由していることもあり、上期から平準化された出荷数量になると見込んでいます

(ご質問 7)

RS1 に係る顧客の評価を教えてください

(ご回答 7)

主な他社製品としては、パチスロ向けは主にエヌビディア社製、パチンコ向けは主にアクセル社製、ヤマハ社製がありますが、当社の製品は主にパチスロ向けのリアルタイム 3D 機能と主にパチンコ向けの 2D 機能を業界で初めて両立させたものです。これにより、2D タイトルと 3D タイトルのプラットフォーム共通化が可能となり、お客様の最大の課題であるコストの低減に貢献できる点、並びに他社製品に劣らないグラフィックス性能を実現している点で、お客様に高い評価をいただいています

(ご質問 8)

開発人員について、前期末時点の人数と現在の見通しを具体的に教えてください

(ご回答 8)

前期末時点における開発人員は約 30 名でした。今期は上期末時点で 36 名、今期末時点では 43 名程度を見込んでいます

(ご質問 9)

期末時点の開発人員が 43 名程度となることを前提とした上で今期の業績予想は変更しない、という認識でよいか

(ご回答 9)

そのご理解に相違ございません

(ご質問 10)

NEDO の受託事業「高効率・高速処理を可能とする AI チップ・次世代コンピューティング技術開発に係るアイデア発掘のための課題調査」は、今期どの程度の売上を見込んでいるのか

(ご回答 10)

約 40 百万円を見込んでいます

(ご質問 11)

今期における NEDO の案件を合計すると前期における収入と同程度になるのか

(ご回答 11)

前期の受託収入は 172 百万円でした。今期は受託事業と助成事業の合計で約 1 億円程度を見込んでいます

(ご質問 12)

ヤマハ発動機との業務提携を下期により加速させるとのことだが、どの程度業績への貢献を見込んでいるのか

(ご回答 12)

具体的な金額は申し上げられませんが、ヤマハ発動機様との業務資本提携後、当第 1 四半期は両社間で今後の業務提携内容のすり合わせを行い、当第 2 四半期から本格的な開発受託が始まっています。また、数年先までのロードマップが設定されているので、今後かなりのボリュームのビジネスを見込んでいます

(ご質問 13)

従前から取り組んでいる自動車関連メーカーからの受託開発についても需要に応える活動をしていると考えてよいか

(ご回答 13)

自動車関連メーカー各社からは研究開発的な受託案件をコンスタントにいただけていますが、自動車の完全自動運転の実現には技術的ハードルも高くまだまだ時間がかかることから、今後もしばらくはそういった状況が続くと考えています。一方、当社がヤマハ発動機様と取り組んでいる低速車両向け自動運転は早い段階で本格的な市場が立ち上がり、技術的ハードルも相対的に低いため、足下では当社にとって現実的かつ大きな商機となると考えています

(ご質問 14)

製品外観検査に関してコンピューターマインド社との技術提携を発表しているが、DMP は工作機械メーカーとの接点があるのか

(ご回答 14)

産業機器分野では、工作機器メーカーや食品の外観検査機器メーカー等との接点があり、具体的な商談が始まっています

以上